写

令和４年１２月定例仙台市社会教育委員の会議　会議録

１　開催日　　令和４年１２月２日（金）

２　開会及び
　　閉会の時刻　　午前１０時００分開会　　午前１２時００分閉会

３　開催場所　　仙台市役所教育局第１会議室

４　出席委員氏名　　阿部哲也委員、安藤直美委員、石垣恵委員、泉山靖人委員、
亀井あかね委員、齋藤愛委員、髙城みさ委員、内藤良介委員、
中山慎也委員、野原昌之委員、朴賢淑委員、広瀬剛史委員、
松本大委員、若生彩委員（全員出席）

５　事務局職員　　柴田生涯学習部長、武者生涯学習支援センター長、田村生涯学習課長、
勢藤生涯学習課主幹、古谷生涯学習課生涯学習係長、
谷口生涯学習課施設係長、須藤生涯学習課企画係長、
生涯学習支援センター事業係　細貝主査
生涯学習課生涯学習係　門脇主査、佐々木主査

６　会議の次第
（１）開会
（２）挨拶　松本委員長
（３）協議事項
　①　調査進捗報告
　②　子育てグループの調査先について
　③　その他
（４）その他
（５）閉会

７　会議の概要
（１）協議事項
　①　調査進捗報告
　○11 月に行われた調査について、グループ分けは資料２、調査先名称・概要・調査担当委員・調査日時については資料３、調査項目は資料４のとおり。
　○調査実施順に代表委員より報告がなされた。
　○各調査先の報告内容は以下のとおり。
　【１】荒町わく！わく！未来塾（文化グループ）
　　報告：野原委員
　・小学生を対象に地域の学校・市民センター・文化施設・商店街・神社仏閣等と社会教育的な連携を持ち、安定的・持続的に文化の本質を学ぶ機会を提供している。

・特定地域に根差した活動であるため、他地域にも情報を発信する取組のサポートがあるとよいのではないか。
・運営サイドの問題としてボランティアで構成されていることと高齢化がある。人材の育成、持続可能性という点から考えると、運営サイドの継承の枠組みを形成していくことが求められる。

【2】いわきり子育てネットワーク（子育てグループ）
報告：齋藤委員
・岩切地区において、市民センターが中心となり、近隣保育所や子育てサークル、地域の子育てに関わる諸団体が一丸となり、安心して子育てができる環境と仲間づくりの場を提供している。
・会議やイベントの通年開催、チラシやリーフレットの配布をとおして、地域の子育てに関する情報や課題を共有し、協力し合いながら子育て中の親子を支えている。
・参加しやすく、楽しいイベントの企画運営を目指しているが、コロナ禍において制限が多くなり、難しい現状がある。
・現時点では創設時のメンバーが、コアメンバーとして残っているが、転勤による引越し等、参加していた方が地域を離れてしまうケースも多く、次世代のスタッフの育成は大きな課題である。
・マンパワーや活動資金の不足も課題として挙げられる。また今の子育て世代に即した情報発信を加えることも求められている。

【3】愛子田植踊（文化グループ）
報告：中山委員
・約400年の歴史を持つ愛子田植踊であるが、何度か中断しながらも、「披露する」ことにより、担い手を確保し継承してきた。
・平成19年ころから社会学級や市民センターと連携し、踊りの披露や講座をとおした人材募集の機会を得て、現在に至る。
・異なる学区が存在する愛子地区において、広瀬市民センターを中心とした連携は重要である。これには愛子社会学級委員長の保存会と社会学級をつなぐネットワーカーとしての役割が大きく寄与している。伝統文化における持続可能な人材育成においては、このような存在が他地域においても重要と言えるのではないか。
・伝統を継承していく為に、引き続き社会行政側の理解と資金面や場所の提供の支援を望んでいた。

【4】ReRoots（文化グループ）
報告：松本委員
・現在、若林区の農村地域のコミュニティ再生に向けた多角的な活動が展開されており、スタッフは大学生が主体であることが特徴。事業の企画実施、助成金申請や広報活動も学生が担っている。そのため学生のリーダーを育てるという意味での人材育成が重視されている。
・農家が求めていることを活動の基盤に置くという団体の理念から、学生がボ

ランティアに携わる際に不可欠な要素としているのが「自分たちがやりたいこと」から「相手が求めていること」へ目線を転換すること。また地域の人々の話を丁寧に聞くこと。活動を取り巻く様々な問題について学生たちで話し合って対応するということ。このようなしくみ、学び合いのプロセスは『生活文化に関する人材育成』という点で他団体にも繋がり得るのではないだろうか。

【５】せんだい杜の子ども劇場（子育てグループ）
報告：安藤委員

・多岐にわたる事業の中で団体が大事にしているのは人が持つ「感性」。子ども達には「参加」に止まらず「参画」してもらうことにこだわっている。「人間の持つ力」を身近に感じてもらい、次の世代の育成へつなげていく。
・ボランティアスタッフの育成についても重きを置いており、研修講座等への参加による研鑽の機会を提供している。
・今の子育て世代の新しい感覚や考え方に目を向け、柔軟に対応できるような行政側の仕組み作りが、人材の掘り起しにも繋がるのではないか、という意見があった。
・仙台市の行政において、地域、市民との連携・協働の強化、それぞれの管轄を超えての横断的な対応、ワンストップの支援を求めていた。
・運営スタッフの次世代への代替わりのタイミングが課題となっている。

②子育てグループの調査先について

○事務局より、調査先として提案する４つの団体について、資料６に基づき説明がなされた。
○子育てグループは調査先選定に向けて、文化グループは実施した調査の分析と提言の方向性について、それぞれ協議を行った。
○子育てグループの調査先として選定した団体は以下のとおり。
１．生出小・中学校運営協議会（コミュニティ・スクール）
２．子育て支援クラブきしゃぽっぽ
○文化グループの協議内容について亀井委員より以下のとおり報告がなされた。
・調査を実施した団体に共通の課題として挙げられることは、後継者をどのように育成するか、組織間や人と人とのネットワークをいかに次世代に繋いでいけるか、ということである。
・現在の活動に関しては資金と活動場所の問題がある。資金面に関しては民間の団体・企業との連携等も視野に入れることが必要なのではないか。また各団体の活動場所でもある公営施設に関して、新設、或いは改修の際、特定の文化についての専門家の意見を取り入れた「使いやすさ」を重視して欲しいとの声があった。

③その他

○事務局より、今後の進め方について、資料７に基づき説明がなされた。

8　その他

○特になし

「仙台市社会教育委員の会議実施要領」第４条及び第５条に基づき会議録を作成し，同要領第６条に基づき委員長及び会議録署名人が署名押印する。

令和 5 年 2 月 2 日

委員長　　松本 大

会議録署名人　　亀井 かおり